

特別活動（ホームルーム）指導案

令和2年11月12日（木）3・4校時（11:00～12:50） 第3学年 食品科学コース（20名）

F3教室 指導者 澁澤 遼子

1 題材名 「地場産業で自己分析 高校生のうちに身に付けておきたいこと」

2 題材観（生徒の実態を含む）

本題材は、高等学校学習指導要領 特別活動 第3章各活動・学校行事の目標と内容 第1節ホームルーム活動 2ホームルーム活動の内容（3）一人一人のキャリア形成と自己実現 ウ社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成に当たるものである。

研究協力校では、農業6学科が設置され、食料・環境・生命・健康の関連分野を担う「将来のスペシャリスト」として必要な基礎・基本を生徒に身に付けさせ、各分野の課題解決に果敢に取り組む前向きな態度を養っている。また、明るく活気に満ちた学園での生活を通して、職業人としての豊かな人間性を育み、地域社会や関連産業の発展に寄与できる有為な人材を育成することを教育目標としている。

生徒の進路希望は、およそ就職が4割、進学が6割である。また、農業関連の進路を選択している者は、卒業生の内、およそ6割である。生徒は社会進出時、専門高校の卒業生として、即戦力となることが求められているが、実態として自己肯定感や自己有用感が低く、職業に対して自分が「できること」「意義を感じること」「挑戦したいこと」を主張できる生徒が決して多くはない。

以上のことから、キャリア教育が掲げる基礎的・汎用的能力のうち、自己理解・自己管理能力に焦点を当て、「何に興味があるか」「得意とを感じるものは何か」「社会人になったとき、自分がどうあるべきか」を生徒に主体的に考えさせ、将来迎える社会人として働くことへの意識を高めるためにこの題材を設定した。

3 研修との関わり

有限会社高崎クエイルは、「幸せのたまごづくり」を経営理念としたウズラの卵生産を行う会社であり、ウズラのふ化から飼育・採卵・包装・流通まで一貫した生産体制を築いている企業である。今春、ウズラの卵を使用したスイーツの直営店「う玉屋」をオープンさせるなど、六次産業化にも積極的に取り組んでいる。その多岐にわたる業務において、それぞれの専門家が能力や得意分野を生かし、ウズラの卵生産を支えるため各々連携をとり、国内のウズラの卵出荷シェア20%を占めている企業である。本題材では、この企業の生産体系を例にとり、一つの企業・業種においても職業人として求められる能力は多くあり、自分の個性を生かすことができる分野が存在するということを伝えていきたい。また、社会へ出る準備段階である高校生活において、生徒に目標をもたせ、広い視野に立って自分自身を高めていけるように支援したい。

4 指導方針

- (1) 有限会社高崎クエイルの企業経営や事業を例として、六次産業化の取組について理解できるようにする。
- (2) グループワークを通じて、自己及び他者の個性や資質・能力を認め合う機会を設定する。
- (3) 企業を経営するために必要な資質を認識させ、社会人として望ましい勤労観・職業観の醸成を図る。

5 評価規準（事前の活動→本時の活動→事後の活動）

評価	集団活動や生活への 関心・意欲・態度	自分の能力を働くことに結び付け、学校生活でその能力をどのように伸ばしていくか意欲を高めている。
----	-----------------------	---

規 準	集団の一員としての 思考・判断・実践	自分が目指す社会人になるために、今どうするべきか考えている。	
	集団活動や生活につ いての知識・理解		
時間	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
	知識・理解	思考・判断・実践	
事 前 の 活 動		<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を振り返る。 ・社会人となったとき、自分の得意分野は何かを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートへの回答
本 時 の 活 動	<ul style="list-style-type: none"> ・六次産業のしくみを理解する。 ・社会人として求められる能力を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修先企業の業務を例に、自分の興味があること、役に立っていることについて考える。 ・他者からどう評価されているかを知り、自身を肯定的に捉える。 ・社会に求められる人材を目指し、能力を高めるために、高校生活での目標を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク ・ワークシート ・活動内容の全体共有 ・事前アンケートの振り返り
事 後 の 活 動		<ul style="list-style-type: none"> ・自身で設定した目標に向け、ワークシートに記入した取組を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート

6 本時の学習指導

- (1) **目 標** 地元の六次産業化に取り組む企業から職種の多様性を知り、グループワークから、自分の適性を肯定的に捉え、社会人になるために必要な資質・能力を理解し、今後の高校生活での目標を立てる。
- (2) **準 備** 【教員】 パソコン、モニタ、ワークシート、模造紙、ペン
【生徒】 筆記用具
- (3) **展 開**

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価) (太字はキャリア教育との関わり)
<導入> 1 研修先企業（高崎クエイル）について、六次産業について知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・六次産業とはこういうものか。 ・ウズラとはどんな生き物なのか。 ・プリンおいしい。 ・群馬にウズラ生産会社があるのか。 ・ウズラ生産業務には様々なものがある。 	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の紹介、研修内容について説明する。 ・六次産業とは何か、ウズラの卵がプリンになるまで順序立てて説明する。 ・高崎クエイルの業務を部門別に説明する。 ・六次産業企業は、複数の職種があり、それぞれの専門家が互いに連携し、企業活動が行われていることを理解させる。 ・高崎クエイルの加工品（プリン）を試食してもらう。
<展開> 2 「自分の能力、興味や関心は何か」「働	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートの振り返りを行う。

- くために求められている能力」を考える。
- 事前アンケートの振り返る
- 社会人基礎力について知る
- ワークシートへの記入する
- グループワークについての説明を受ける

- ・社会の中で、自分ができるとは何か。
- ・国が求める社会人の資質とはどのようなものか。

休憩

3 グループ活動

- 高崎クエイルの社員になったと仮定してグループ活動を行う。
- 指定されたグループで、高崎クエイルの各業務について、模造紙にイメージマップを作成する。

- ・イメージマップとは何だろう。
- ・この業務を遂行する上で、必要なものや作業はなんだろう。
- ・自分はこの業務にどんなイメージをもっているのだろうか。
- ・自分がもしこの企業に就職したらできることは何だろうか。

- イメージの枝を広げた先に見える、各業務に必要な社会人基礎力を三つ選び、模造紙に記入する。

4 完成した模造紙を確認する。

- 自他のグループが作成したイメージマップの完成を確認し、六次産業の業務の広がり理解する。
- 各グループの代表者が、グループでどの

10分

20分

10分

- ・プレゼンテーションソフトを用いて講義を行う。
- ・国が大学生に求めている社会人基礎力を認識させ、生徒自らの性格・能力との照らし合わせをさせる。
- ・ワークシートに記入させる。

◎机間支援・声掛け

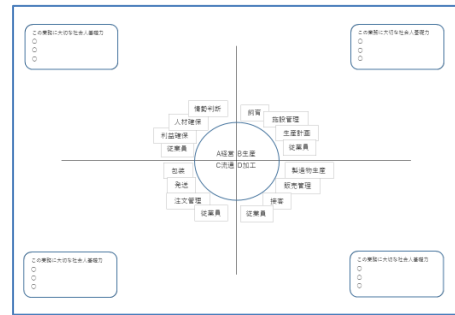
(後半のグループワークで用いる色紙の配布)

(グループワークの座席作り)

- ・グループワークについて説明する。
- ・高崎クエイルの業務を四つに分割した模造紙を黒板に掲示する
- ・グループ分けを行い、それぞれのグループに業務を分配する。

<模造紙のピース：A経営 B生産 C流通 D加工>

模造紙 (案)



- ・イメージマップとは何かを説明する。
- ・社会人基礎力を選ぶことを目的として、各グループで話し合いながら各業務内容について想像し、模造紙にイメージマップを作成させる。

◎机間支援・声掛け

- ・業務内容のイメージが湧かず、作業が進まないグループへの補助として、ヒント（研修で実際に体験した業務、出来事など）を与えながら支援を行う。
- ・前半部分で紹介した社会人基礎力を確認させイメージマップから各業務に必要なものを三つ選ばせる。

- ・グループで記入した模造紙を回収・掲示し、全体像を生徒に確認させる。
- ・六次産業化した企業の多様性を視覚的に理解させる。
- ・必要に応じて、担当したグループに発問、補

<p>ような話合いの内容や、社会人基礎力を選んだ理由を他グループに説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 他グループの業務ではどのようなイメージマップが完成したのだろう。 想像していたものと違うイメージの枝の広がりや社会人基礎力の選択がされているな。 もしこの企業に就職したらできることは何だろうか。 <p>5 高崎クエイルの業務の中で、自分・友人はどれに適性があるか、ネームプレート（色紙）を配置する。</p> <p>○自分や他者の能力がどの業務で生かせるか、どの分野に興味があったか。また、自分が他者にどう評価されているかを認識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の能力はどこで生かせるだろう。 友人は、自分の能力をどう評価しているのだろう。 	<p>10分</p>	<p>足説明をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ネームプレート（自分用1枚、友人用2枚）の配付、使い方の説明。 自他の資質・能力を高崎クエイルの業務に当てはめさせる。 他者の評価を踏まえ、自身の適性や興味関心を認識させる。 <p>◇完成した模造紙、あるいは他者の自分への評価から、今の自分と将来目指したい社会人との比較をすることができる。</p> <p>(自己理解・自己管理能力の育成)</p>
<p><まとめ></p> <p>6 本時の振り返りを個々でワークシートに記入する。</p> <p>○掲示された模造紙を見ながら、感想を記入する。</p> <p>○社会人になるために今後の学校生活で身に付けたいこと、それを達成するための目標を設定する。</p> <p>7 本時の総括</p>	<p>10分</p>	<ul style="list-style-type: none"> ネームプレート（色紙）が貼付された模造紙について説明し、ワークシートの感想を書かせる。 働くこと、農業の大切さについて、研修を通じて感じたことを生徒に伝える。 <p>◇生徒自身の将来を見据え、どんな社会人になりたいか、今自分が身に付けるべきことを考え、残りの高校生活での目標を立てることができる。</p> <p>(自己理解・自己管理能力の育成)</p>

※資料添付

- ・資料
- ・ワークシート
- ・事前アンケート